2015 9/22
No.2003
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

相模原市南区麻溝台の井上果樹園でクリの収穫がピークを迎えている。園内には伊吹、利平など５品種計50本のクリの木が植えられ、直売のほか、休日にはクリ拾い体験もできる。同体験は有料で10月中旬まで。

神奈川新聞社

政経かながわ

2015 9/22 No.2003

contents

視点・点描 3
ダブルケアの支援推進を

国　際 4
不透明感高まるロシア経済
外貨準備高に疑問符

経　済 6
ハードとソフトが融合する世界
新たな産業革命の本質とは

国　際 8
“トランプ旋風”に揺れる共和党
米大統領選挙が本格始動

くらし2015 10
年金保険料の後払い活用を

広告珍談 12
おもしろい乗り物④
レールを走る馬車？

NNAアジア経済リポート 13

神奈川景気データファイル 14

神奈川景気データファイル 15

事務局だより

◇横浜定例講演会
2015年10月8日(木)
13時30分～15時
ホテルニューグランド3階
「ペリー来航の間」
講師は双日総合研究所副所長、
チーフエコノミストの
吉崎　達彦氏
演題は「どうなる日本経済と世界」(仮題)

◇横浜定例講演会
2015年11月9日(月)
13時30分～15時
ロイヤルホールヨコハマ3階
「シンフォニー」
講師は新潟県立大学教授、
青山学院大学名誉教授の
袴田　茂樹氏
演題は「動乱の世界情勢と日露関係」(仮題)

視点点描

ダブルケアの支援推進を

最近、新聞記事やテレビのニュースで見ることの多くなった用語がある。育児と介護が同時進行となる「ダブルケア」である。

晩婚化に伴い、出産年齢が高くなる一方、少子化できょうだいや親戚が減少。子育てと親の介護にいっぺんに関わる共働き世帯の肉体的、精神的負担の増大が新たな社会問題となっている。行政による実態把握はもちろん、対策も急務となっている。子育て支援と高齢者介護の施策を連携させる必要があろう。

横浜市内では、ダブルケアに直面しながら働く人に対する支援のあり方を探るさまざまな動きが出ている。

その一つとして注目しているのは、横浜市と横浜信用金庫を軸にした連携だ。関連事業者の新規参入や事業拡大を支援するための相談窓口を12月、試験的に開設することを明らかにしている。

市の持つ情報を活用してもらい、信金から事業支援などを受ける実証実験を行う。ダブルケアに関わる事業者を増やすことによって、育児と介護の両立に悩んでいる人たちの負担を減らすのが目的という。

支援対象は創業希望者や既存企業のほか、NPO法人、社会福祉法人など。事業者の必要な情報や、ダブルケアに直面する市民の現状などを把握した上で、12月から来年2月にかけ、信金に相談窓口を試験的に開設する。市などは2016年度の本格実施を目指している。

窓口では、高齢化率や子育て世帯数といった市が保有する情報をタブレット端末で事業者などに提供。信金は融資相談にも応じる。

信金には、これまで培ってきた経営相談や事業支援のノウハウがある。それをぜひ、この取り組みに生かしてほしい。

さらに、ダブルケアについて市内では、大学やNPO法人がプロジェクトチームをつくり、シンポジウム開催や当事者向けのハンドブック作製などにも乗り出している。行政だけの支援には限界がある。社会全体で負担軽減する環境をつくりたい。

精神的、肉体的疲労や経済的負担だけでなく、誰にも話せない孤立感、切迫した思いを訴える人も少なくない。ダブルケアに悩む人を支えるには家族の理解はもちろん、当事者が語り合える場を設け、孤立を防ぐことも必要だ。居場所づくりも進めたい。

（神奈川新聞社経済部長　石曽根　剛）

レールを走る馬車？

宮野　力哉

日本の乗り物はカゴや馬→人力車や馬車→鉄道（ＳＬの）→電気鉄道と発展するなかで、レールを走る馬車があった。《鉄道馬車》とも、《馬車鉄道》ともいう。

１８７２（明治５）年、横浜桜木町から東京新橋まで、日本最初の鉄道が開通した。終点の新橋から東京市内へ、路線馬車（２００号をどうぞ）が開通した。そのおなじルートにレールが敷かれ、馬車鉄道が走った。

《馬車鉄道》という国際的な都市交通は36年、ニューヨークで世界最初に走った。54年にパリ、61年にロンドン、65年ベルリンにも走った。東京は82（明治15）年である。

24人から28人乗りの木製客車を、2頭の馬がひく。馭者である運転手と車掌が乗務した。複線でレールの幅は１３７２ミリ、ＪＲの在来線は狭軌で１０６７ミリ。新幹線は標準軌道で１４３５ミリ。ということは馬車鉄道はＪＲ在来線より幅広く、乗り心地はよかったにちがいない。もちろん乗合馬車よりも、そして近い将来に走りだす、市街電車とくらべても遜色はない。

馬車といえども鉄道だから、上等と下等がある。つまり普通車とグリーン車。

東京本所柳川町二丁目六十七番地
有限責任
東京馬車會社廣告
乗合
本月十一日開業式を取行し翌十二日より
延に左の一線路の往復をなし一區内御乗車
荷物一人
壹錢也
廣告等も同日より左
車賃の定價にて御引
受中候間幾重にも
皮巻鞄上候也
且廣告御申込被成下
本社丸段坂下に
の二の橋より
本社の橋迄
美倉橋より
萬世橋より
小川町迄
丸段坂下迄
の
兩國より入形町
通旅籠町角迄
水天宮前迄
萬町より
京橋迄
新橋迄
兩國より
通旅籠町角より
水天宮前迄
萬町より
京橋迄
新橋迄
の
兩國より
廣小路迄
雷神門前より
下谷山伏町迄
上野三橋迄
の
兩國より
廣小路迄
雷神門前迄
下谷山伏町より
上野三橋迄
廣告定價
本月内へ認て定價の半
額を以て御引受け申候
本社の車賃總數へ
美濃判壹枚
貼付して一日分
十五銭十日間以上三十日以内へ一日分二
銭一ヶ月以上一ヶ月四日間の窓合也
ヶ月四日間以内へ一日三十
銭十日間以上三十日以内へ一日三十
同一枚繼
以上へ千枚に付銭五千枚以上へ千枚に
付二十五銭一万枚以上へ一万枚に付二圓
の割合なり
散し廣告
（車内に於て車掌）へ一
（の即付するもの）千枚
車内
下げ廣告
五十枚繼一日二十銭
百枚繼一日二十五銭
の割
本月内の廣告料
多數の方へ
可
有之中候間
貼付
る車内へ
故に
其他
止
持
の
廣告文
廣告文
形繼列枚
形繼列枚

開通初日は6両を4時間、運転して乗客は１５１１人、42円33銭8厘の売上げ。2日目は朝8時から夜8時まで運転。２８８８人が乗車、売上げは74円7銭と新聞が報道した。

開通から3年後、運営する東京乗合馬車会社が、図の新聞広告を掲出した。乗ってくれという広告ではなく、車内に掲出するポスターと配布するチラシを募集する内容である。

右端に「東京乗合馬車会社広告」とあるから、ややこしい。解読するとこうなる。

「欧米各国ノ鉄道馬車室内ニ於テ」さまざまの広告が掲出されている。当社でも8月1日から開店や売出しの広告を掲出。多数の乗客に披露したところ、好評につき、お申込みあれ。室内のさまざまの広告とは、車内吊りポスターのこと。新聞広告はまだつづく。

ポスターのサイズは、27センチに18センチのタテ長。現在の中吊りポスターはヨコ長のＢ３版がほとんどだけど?。枚数は1車両1枚として、毎日60台が走ってるので60枚、持ってきてくれ。掲出料は1日60銭、期間が長くなると安くしますよと。

3路線あり、色ガラスのランプで上野行きは赤。浅草行きは緑、新橋行きは白。2頭立ての馬車は、チリンチリンと鈴を鳴らして、のんびりと走ったという。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）ポスターとチラシを募集する広告・１８８９（明治22）年5月12日、新聞各紙掲載